

## 保育計画成果報告書

法人名等	学校法人 古木学園
施設名	認定こども園 相模林間幼稚園
報告者（役職）	古木 大悟（ 園長 ）
住所・連絡先	神奈川県相模原市南区上鶴間4-2-1
	☎ 042-742-8227 E-mail info@sagamirinkan.jp

○タイトル（保育計画）

遊ぼう！初めてのすべり台！

○主な助成備品

乳幼児向けすべり台

### 1. 保育計画策定の目的

- ・ 0・1・2歳児向けの身体を動かす遊びが生まれるような環境を作ること。
- ・ 初めてすべり台に挑戦する子どもでも、「楽しい」「もう一度やってみたい」という意欲がわくようにすること。
- ・ すべり台を怖いと思っている子ども、近くで他の子のあそびの様子をみて、それが「自分もいつかやってみよう」と思えるような場所があること。
- ・ 保育者が介入して援助をしなければ遊びができない・続かないというようなものでなく、保育者は遠くから見守るだけで子どもたち同士が安全に遊べるもの。

### 2. 具体的な実施内容

0～2歳の子どもの遊びが活性化するように0・1・2歳児が主に利用する園庭に設置することにした。

「初めてのすべり台・・・ドキドキ」

楽しくて何度も上り下りすることで全身を動かして遊ぶことができ、「高いところ」という感覚を持つことや、そこから降りる経験をすることで、心の自信にもつながると考えた。なによりも、「楽しい！」という気持ちは、「何度もやりたい！」と思う子どもたちの自発性を高める。そして、子どもが集まり、遊びが繰り返されることによって、子ども同士のかかわりが生まれる。子ども同士のかかわりが生まれると、相手を意識できるように

なる。

但し、乳児はまだ遊具で遊ぶこと自体苦手な子もいる。初めてのことに對して慎重な子もいる。それでも、異年齢が交わる園庭だからこそ、『次は自分がやってみたいな』『かっこいいな』というように、すぐに目に見える成果がでなくても、少しずつ意欲は高まっていくと想定した。

またこのすべり台は0歳から遊べる設計にした。公園などに行っても、なかなか小さい子が安全に遊べるすべり台は少ない。どうしても、保育者が階段の補助をしたり、スロープを逆走して登りたがる子どもを制止しなければ転落の可能性もあるからである。

しかし、今回助成していただいたものは、子どもだけでも安全に段差の登り降りができるものである。何度も何度もやりたいという子どもの気持ちに応えることができるし、子どもが考えた色々な遊びに対応できるものにした。

そして楽しいことは何度もやりたい乳幼児であるから、大好きなすべり台で何度も遊んでいる。段差を自然に上り下りすることが出来き、のびのびと体を動かすことで気分が良くなるだけでなく、バランス感覚・筋力向上など様々な体力面の向上が期待できる。また、すべり台は少し高い位置になるため、上からは園庭をみわたすことができ、園庭に生えている草木に目を向けるなど、肌で自然を感じるができる場所になっている。

### 3. その成果と評価

今までは園庭に出ても、0歳～2歳は砂場で遊ぶ子どもが殆どで、どうしたら「動」の遊びができるか模索していた。しかし、すべり台ができてからは、乳児がのびのびと体を動かして遊ぶ様子がみられる。また、すべり台が苦手な子どもも階段の台は大好きなのだと気づくことができた。きっと「次は僕も滑ってみよう」と様子をうかがっていることだろう。公園の滑り台などは、下から登ることが許されていなかったり、保育者が介助しないと乳児は遊べないものも多くありますが、大人がずっとついていなくても安全に楽しく遊んでいます。遊具が増えたことで子どもたちの笑顔も増え、園庭あそびが充実したと感じています。本当にありがとうございました。

遊びに積極的で、お兄ちゃんの存在のT君（黄色い帽子の子）。少し慎重派のM君（グレーの上着の子）はT君の遊ぶ様子を見ていたが・・・



T君の楽しそうな様子を見てM君も初めてすべり台にチャレンジする姿が・・・

やったね！M君！  
できた！できた！

このように子どもたちだけで遊ぶ様子が見られた。



#### 4. 今後の課題と展望

今回の助成を通して、0・1・2歳の子どもたちが楽しく、そして安全にすべり台ができる環境が整ったことに心から感謝いたします。今後はこのすべり台で十分に遊んだ子どもたちが、徐々に身体能力を高めて、芝生の滑り台や、ゴリラ山の昇り降りなど発達に応じて、様々な遊び挑戦できるように子どもたちのあそび場・園庭づくりを進めて参りたいと考えております。

以上